●◆しゃばのしがらみを、仏の願いの中でいただこう◆●

仏の願い

平成 22 年 西雲寺だより　冬号（19 号）

当山 御正忌報恩講のご案内

11月28日(日)～30日(火)

28日お逮夜(2時)
お初夜(7時)（武周お講）
29日お日中(10時)
大逮夜(2時)（御伝鈔）
お初夜(7時)（御伝鈔）
30日満日中(10時)

法話　福井　奥田順誓 師（29日より）

お誘い合わせの上
ご参詣下さいますよう
ご案内いたします

親鸞展のご案内

主催：福井市立郷土歴史博物館
共催：中日新聞社　日刊県民福井
後援：福井県教育委員会　NHK福井放送
FBC福井放送　福井テレビ　FM福井
福井ケーブルテレビ　さかいケーブルテレビ　福井街角放送

おすすめいたします。
じっくりとどうぞ。

とき　11 月 29 日（月）まで
（午前 9 時～午後 5 時）期間中休館日なし
ところ　福井市立郷土歴史博物館
（宝永の養浩館庭園の隣です）
観覧料　一般 800 円（常設展・養浩館入園料含む）

親鸞聖人のご生涯

教行信証の撰述

親鸞聖人は常陸の国（茨城県）の稲田の草庵において、よき師法然上人より賜わった浄土真宗のみ教えが一切の衆生が皆平等にすくわれる唯一真実の仏道であることを顕らかにすべく『教行信証』の執筆にとりかかれました。前回は『教行信証』六巻のうち、教・行・信・証・四巻の内容で終わりましたのであと二巻「真仏土巻」「化身土巻」についてその内容を記したいと思います。

教行信証の内容

真仏土巻

つつしんで真仏土を按（あん）ずれば、仏はすなはちこれ不可思議光如来なり、土はまたこれ無量光明土なり。

と示されます。仏もその浄土も光として表わされていますが、光明はさとりの智慧を表わします。阿弥陀如来は迷いの一切衆生を救うために、我身を智慧限りない不可思議光如来として成就し、またその土（浄土）を光限りなき無量光明土として成就されたと示されます。仏もその浄土も我々迷いの衆生をめざめさせ無上涅槃界といわれるさとりの世界にひき入れるための智慧のおはらきそのものであることを示されるのです。ここで注意すべきは私たちはお浄土というと、お経に説かれているように、金、銀、瑠璃（るり）で飾られ、迦陵頻伽（かりょうびんが）などの美しい鳥がさえずり、池には蓮の花が咲きほこる光景を思い浮かべますが、それは私たちを真実の世界に導き入れるための方便（てだて）だといわれるのです。私たちはお浄土のそのような清らかな世界をこころに思い浮かべることによって、浄土に生まれたいという願いがおこるのです。

方便化身土巻

この巻において、真実の教えに対して真実でない教えについて明かされます。真実でない教えには偽の宗教、すなわち私たちの煩悩を助長し、迷いの世界にひき入れるにせものの教えと、私たちを真実の教えに導き入れるための方便の教えとがあります。方便の教えとして自力聖道門と、お念仏の教えの中にもまことのお念仏の世界に導き入れるための方便の教えがあるとされます。私たちは偽の教えを捨て、方便の教えに導かれて、真実の教えに出遇わせていただかなければなりません。

偽の宗教

偽というのは親鸞聖人は「九十五種の邪道」あるいは「外道」と言われます。外道に対して仏道を「内道」といいます。外道の外というのは自分の外なるものを依り所として、自分の欲望を満足させ、幸せを得ようとするものです。生まれて死ぬまでなんとか幸せになろうとして、占いをしてみたり、日や方角を選んでみたりすることです。外道は人間を「幸せ」で押えようとするのですが、人間というものは深いもので、自分の思った通りになったぐらいでは満足しないのです。またその幸せもいつかは崩れていくのです。人間の本当の幸せは自分の思いが破られた世界へ出させていただくことでしょう。

仮（け）の宗教

仮というのは「かり」「方便」ということです。私たちを真実の教えに導くための如来さまの方便（てだて）としての教えです。仮としての教えは三つに分けられます。

○聖道門（しょうどうもん）

人間の希望と努力によって、仏さまに一歩でも近づいていく道、すなわち自力の教えです。親鸞聖人は比叡山において二十年間自力聖道の修行に励まれました。しかし煩悩一つを断ずることもできず、迷いを超えることもできなかったのです。聖人は正像末和讃（しょうぞうまつわさん）の中で次のようにうたわれています。

自力聖道の菩提心
こころもことばもおよばれず
常没流転（じょうもつるてん）せしむべき
いかでか発起（ほっき）せしむべき
凡愚は

私たちは自力聖道の修行の成し難いことを体験しなければ絶対他力のお念仏の教えに出遇うこともできないのでしょう。その意味において親鸞聖人が私たちに代わって比叡山で二十年間自力の修行をして下さったのです。

次に浄土門のお念仏の教えの中に「要門」と「真門」の二つの方便の教えがあるとされます。

○要門（ようもん）

「要門」というのは、お念仏だけでなくいろんなものをお浄土に生まれる種にしていこうということです。お経を唱え、少しでも欲や怒りの心を減らし、優しい心を起し、そして自分が死ぬ時に仏様にお迎えに来てもらえるような生き方を平生（へいぜい）にしようというものです。これは四十八願の第十九願に誓われたものでどこまでも方便の教えです。

○真門（しんもん）

「要門」の教えに入って一生懸命やってみてもそんな人生にはならない。こんなことでは本当に自分が浄土に生まれられるのだろうか、本当に救われていくのだろうか、そんな疑念が払いのけられない。その時にいろんなものを全部捨てて、「念仏一つ」に決めるのです。他のものを全部捨てて「念仏一つ」に決めることも親鸞聖人は「仮門（けもん）」であり「仮」であるといわれるのです。それは「念仏一つ」に決めてもその念仏は「称える」念仏でなく「唱える」念仏なのです。念仏したら助かるだろうと思って唱える念仏は人間の行であって、まことのお念仏ではありません。これは二十願に誓われた方便としての念仏です。

真実の宗教

親鸞聖人は「仮」としてのお念仏と真実のお念仏とをはっきりと分けられます。数多く唱える念仏は人間の「行」であり「信」です。真実のお念仏は「如来の行」であり如来さまのおはたらきです。南無阿弥陀仏というのは如来さまの名告（なの）りであり、私たち迷いの衆生を「念仏して浄土を願ってくれ」と呼びかけていて下さる願心そのものです。浄土真宗においては念仏をとなえるという時には「称える」という字を使います。親鸞聖人は「称える」ということは「聞く」ことだといわれます。称えながら、如来の呼び声、願心を聞かしていただくのです。そして聞えたまんまが私の信心となって下さる「聞即信（もんそくしん）」が真実の教えなのです。如来のまことが「聞」を通して私の分別計らいを破って、呼び声となって聞えて下さるのです。聞えたまんまが信心となって私を生かして歩ましめて下さるのです。

親鸞聖人の田植え歌

茨城県の水戸市に「親鸞御田植の旧跡」があります。親鸞聖人がお弟子の平太郎の願いで大部（おおぶ）に滞在していたとき、田植えをする人々から念仏の声が聞かれない、そこで聖人は今生（こんじょう）の名利（みょうり）にかかり果てて、後生（ごしょう）の一大事に気づかない百姓たちを憐れに思って、自ら田んぼに入り、田植歌を作って土地の人々に教えたと伝えられています。

五劫思惟（ごこうしゆい）の苗代に
兆載永劫（ちょうさいようこう）のしろをして
一念帰命（きみょう）の種をおろし
自力雑行（ぞうぎょう）の草をとり
念々相続の水を流し
往生の秋になりぬれば
このみとるこそうれしけれ
南無阿弥陀仏　南無阿弥陀仏

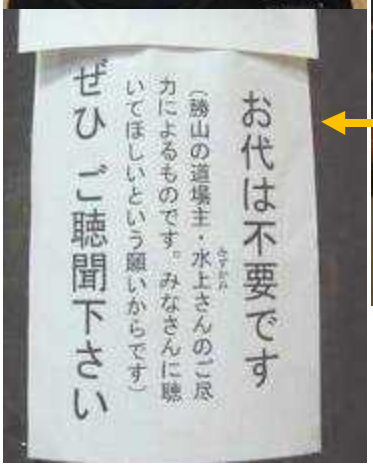
親鸞聖人お田植え歌の旧跡（水戸市飯富町）

DVD・CD・本コーナーのご紹介

おみどうの両端に並べてありますので、お参りの際にぜひご活用下さい。

（使い方を若い人にお尋ね下さるとなお有り難いです）

DVDは画面が映ります



CD・本コーナーは反対側にございます

図書紹介

『ほんとうのしあわせ』
河村とし子著

東本願寺出版部
1988年
税込210円

おみどうに置いてある中の一冊です

この本は、私のように真宗の教えが？？？の方にオススメです!!キリスト教徒だった著者がたまたま真宗の家に嫁ぎ、抵抗感をもちながらも目覚めていかれた実話です。

この方ほどストレートに、真宗の教えが「わからない」と連発する人は珍しいと思います。まるで私のモヤモヤを代弁してくれているようで、心地よかったです。

彼女の場合は、わからないまま流されるのではなく、聴聞し続けることで真宗の世界と向き合い続けます。私はそんな彼女の姿がとても格好いいと思いました。

親鸞聖人を始め、いろんな人の姿を通してついに真宗に出遇えた喜びが、彼女の優しい口調からにじみ出てくるようです。（美和子）

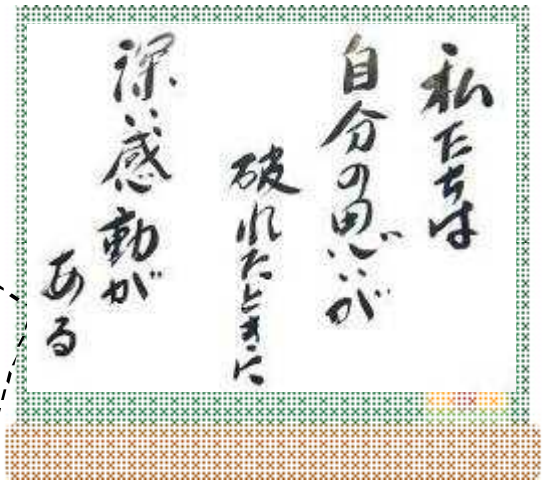
※この本をネットで購入される場合は、東本願寺出版のサイト「TOMOぶっく」が、在庫豊富で便利です。（編者）

大慈悲心
西ゆきぬ
月の影より
弥陀仏は
心白什より
使者となりぬる

摂取
法の道
合点ゆくまで
聞くのみに
無限無辺の
光に憩いぬる

西別所町
渡辺　嘉子

山門掲示板



私たちは日頃、いろんな事に出会い、喜んだり、悲しんだり、幸せを感じたりしています。また仏法を聞いて、今日のお話しはよかった、感動したということもあるでしょう。しかしそれはどこまでも自分の思いの中の出来事であって、私の「思い」の世界を一歩も出ることはないのです。私たちのこころの奥底には自分の思いが破られるような「大いなるもの」に出遇いたいという要求があるのです。本当の感動は大いなるもの、真実なるものに出遇い、「手が合わさった」ところにあるのです。そこに生きていることのいのちの厳粛さがあります。頭の下がった世界を「帰命」といいます。帰命という世界は私の方から求めて得られるものではありません。「聞」を通して、はからずしも如来さまの本願の呼び声が聞こえ、私の身を貫通する世界です。（住職）

先輩の感動をたずねて

感動その1　てっきりお釈迦さまが仏教を始めたと思ってたけど、そうじゃなかったんだ！

「世に出た如来」とは明らかにお釈迦さまを指しますから「お釈迦さまが世に出られたのはただ阿弥陀仏の願いを説くためでした」という意味になります。それって驚きじゃありません？常識的にはお釈迦さまが説いた教えを仏教と呼び、釈迦如来を仏教の開祖としますよね。でもそうじゃなく、お釈迦さまは阿弥陀という過去仏の願いを受け継がれたんだと、親鸞さんは歌っておられるのです。それはビックリ！

感動その2　「世に出た如来」ってお釈迦さま一人じゃないの？

親鸞さんは「釈迦」と書いた上を墨で塗りつぶして「如来」と書き直しています。「釈迦」ならお一人なんですが「如来」は不特定多数。しかも「世に出た」ってことは「現実の人」ですから、親鸞さんは現実の社会で沢山の人を如来と仰がれたんですね。（編者）

如来所以興出世（にょらいしょいこうしゅっせ）
唯説弥陀本願海（ゆいせつみだほんがんかい）
親鸞作『正信念仏偈』より

読み方―如来、世に興出したまうゆえは、ただ弥陀の本願海を説かんとなり。
※如来―如（真実）から来るはたらき、また如へと向かうはたらき。
※世に興出―世に出ること。形となって現れること。例えば、如が人として現れたのがお釈迦さまや善知識（先輩方）、言葉として現れたのが念仏。

50年前の御遠忌の写真です！

―親鸞聖人 700 回忌（昭和 36 年）―

丸岡の吉沢さん(武周町出身)ご提供。
ありがとうございます。

他にもお持ちの方が
ございましたら
ぜひご一報下さい。

来年5月の750回大遠忌、ぜひ一緒にお参りいたしましょう！

（1）1泊2日コース　　5月20日（金）～21日（土）
※貴船の川床を訪ねる予定でしたが、条件が合わず変更になりました。

（2）土曜日日帰りコース　5月21日（土）

（3）日曜日日帰りコース　5月22日（日）

どのコースも、トイレ休憩を多く取るなど、皆さんの体調を考慮して運行いたします。一人でも多くのお申し込みをお待ちしております。

お申し込みは、なるべく今年中に、在所の世話方さんまで、お願いします。市街地在住の皆さまは西雲寺までご連絡下さい。

嬉しいことに
バス増発の
雰囲気！

（詳しいご案内は前号をご覧下さい。もしくは西雲寺 97-2138 まで）

発　行

真宗仏光寺派　専念山　西雲寺（さいうんじ）
住職　護城一寿
筆頭総代　鈴木春夫
編集責任者　護城一哉
〒910-3523　福井市武周町５－２
電話　0776-97-2138
メール　kmgojo@mx3.fctv.ne.jp
ホームページ　http://arukou.net/

次世代の方、分家された方に！
お手元に２部届いた時には、ぜひご活用下さい。

みなさんの声　大募集！
原稿や作品はもちろん、ご意見、ご感想など、どしどしお寄せ下さい。郵送でもメールでも構いません。お待ちしております。